131211 C 班会議メモ（文責：東北大・須藤）
日時：2013 年 12 月 11 日（水）10 時－12 時
場所：東北大学東京分室
出席者：阿多・関谷・安（産総研）、山内（新潟大）、小林（大阪大）、石田・古川・須藤（東北大）

①中間評価に向けての事前評価の再確認（石田）
・ライフスタイルからバイオミメティクスを含むテクノロジーまで落とし込んだ具体的なサンプルを見せる必要がある（同じライフスタイルから Bio-TRIZ を通したものと通さないものと両方）。
・社会インプリケーティングという点については、阿多グループで現在行っている発信に加えて、社会がバイオミメティクスをどのように受け止めているのかをアンケートなどで調査する必要がある。

②阿多グループ報告（報告者：阿多）および議論
・情報発信（PEN, PENGIN）の状況・・・PENGIN については毎月ダウンロードしていくユーザーが世界で 1 万人レベルで存在する。
・来年からの予定としては、PEN でバイオミメティクスの新連載、C 班主催の WS 開催、市民ニーズ調査を行う。
・市民ニーズ調査をどうするか？→ビジネス戦略に関することなので個別で企業に訊いても答えてはくれない。→現在進めている研究は、企業や社会は現在のままの技術開発のやり方でいくことに違和感を持っているはずであるという前提に立っているが、それを確認する必要がある。→社会や市民が現在のテクノロジーをどのように受け止めているのかを調査する。まずは楽天リサーチなどで Web アンケート。
・ライフスタイルやバイオミメティクスをどのように社会に啓蒙・浸透させていくのかは、現状を把握した上での来年度以降の課題。
・ISO 第 3 回総会（10 月末）の報告：ナノテクノロジーのときの教訓を活かして、本当に産業界のためになるように、コミュニケーションに関する新しい TG(Task Group)を関谷より提案（関谷をリーダーとする TG）
・SKO に似ていても異なるデザインプロセスは多く存在するので、SKO だけを国際標準化にしてしまうことは危険。欧州主導のマネジメントにされるのは避けなければならない。
・PEN にてもっと C 班の活動をアピールする必要がある。→執筆依頼（石田、小林：羽、山内：Bio-TRIZ、古川）

③山内・小林グループ報告（報告者：山内）および議論
・TRIZ 原理だけでは解決策に辿り着くのが難しいものも、Bio-TRIZ（自然 DB とつなぐこ

と）によりハードルが下がる。
・4 つのライフスタイル（電柱、バクテリア、燃料カートリッジ、バクテリア・キット）について、Bio-TRIZ を試した。ライフスタイルの文章から、解決したい点とそれによって生じる不具合を考え、それを TRIZ 原理に当てはめた。それに相当する自然のすごさをマトリックス中に埋め込む。
・Bio-TRIZ の分類と ISO での抽象化・一般化（細田先生が技術抽出している）を、ある程度合わせていく。
・石田グループでライフスタイルの行為・機能分解木を作成するときに、解決したい点（こうしたいという点）まで明示化するようにして、さらにそれによって生じるであろう不具合まで明示しておく。(実際の技術者が分解木を見たら、おそらくもっと出てくるはずだが。)
・「解決したい点」と「不具合」の組合せから、山内・小林グループが Bio-TRIZ に当てはめていき、自然から学べる解決例までつなぐ。
・LS→Bio-TRIZ で出てきたサンプルをこまめに PEN で報告する。

・全体のデザインプロセスの絵を作成する（石田)。新しい解決プロセスになるので、ISO に提案して WG を立ち上げてもよいのではないか。ライフスタイル・デザインまで入れた製品までのデザインプロセスとして。

④その他
次回の班会議開催は、仙台で 2 月 27 日（木）15 時－17 日にする。

【中間報告に向けて次回会議までに進めること】
・全体のデザインプロセスの絵を作成（石田）
・オントロジー工学導入によるライフスタイルの分解木から得られた「解決すべき要素」に対して、Bio-TRIZ で解を求める。（古川・須藤→山内・小林）
・社会ニーズ調査（阿多、関谷、安）